

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 23年8月 - 宿泊・飲食サービス業は就業者、新規求人数ともに大幅増加

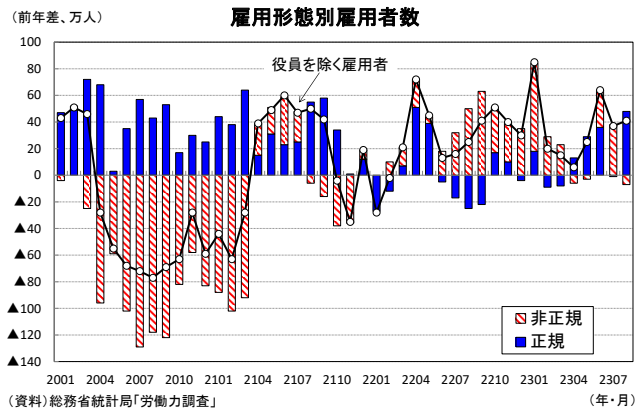
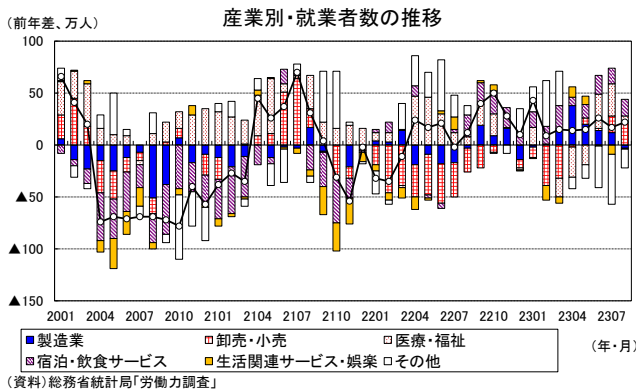
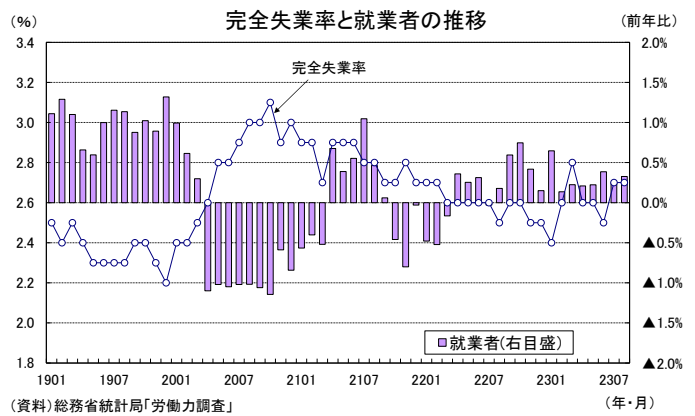
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は前月から横ばいの2.7%

総務省が9月29日に公表した労働力調査によると、23年8月の完全失業率は前月から横ばいの2.7%（QUICK集計・事前予想：2.6%、当社予想も2.6%）となった。

労働力人口が前月から5万人の増加となる中、就業者が前月から5万人増加し、失業者は前月から1万人増の185万人（いずれも季節調整値）となった。



就業者数は前年差22万人増（7月：同17万人増）と13ヵ月連続で増加した。産業別には、生活関連サービス・娯楽業が前年差▲1万人減（7月：同▲9万人減）と3ヵ月連続で減少し、製造業が前年差▲3万人減（7月：同12万人増）と7ヵ月ぶりに減少に転じたが、医療・福祉が前年差6万人増（7月：同31万人増）と3ヵ月連続で増加したほか、宿泊・飲食サービス業が前年差16万人増（7月：同15万人増）と14ヵ月連続で増加した。

雇用者数（役員を除く）は前年に比べ41万人増（7月：同37万人増）と18ヵ月連続で増加した。雇用形態別にみると、正規の職員・従業員数が前年差48万人増（7月：▲1万人減）と2ヵ月ぶりに増加する一方、非正規の職員・従業員数が前年差▲7万人減（7月：同38万人増）と3ヵ月ぶり

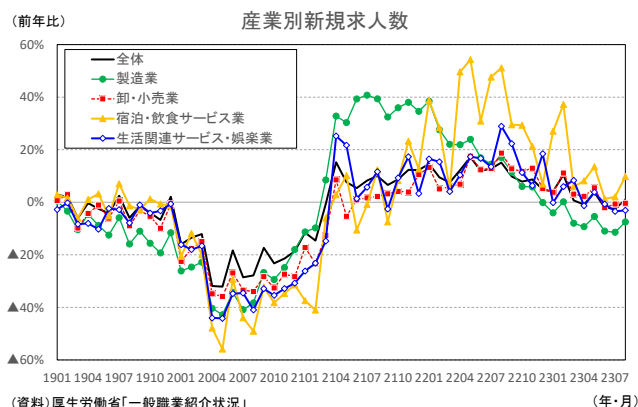
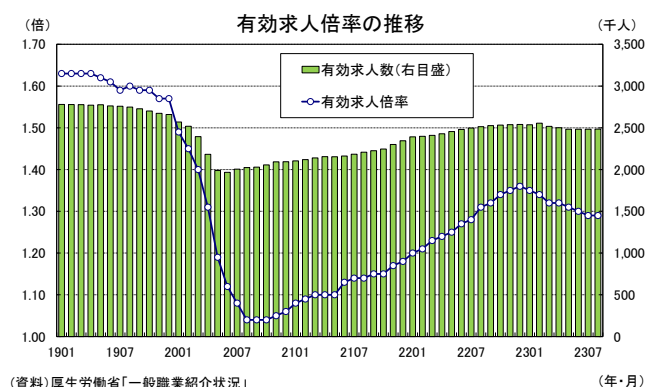
に減少した。

2. 宿泊・飲食サービスの新規求人数が大幅増加

厚生労働省が9月29日に公表した一般職業紹介状況によると、23年8月の有効求人倍率は前月から横ばいの1.29倍(QUICK集計・事前予想:1.29倍、当社予想も1.29倍)となった。有効求人数が前月比0.1%、有効求職者数が同▲0.2%といずれも前月からほぼ横ばいとなった。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.06ポイント上昇の2.33倍となった。新規求人数は前月比0.9%の増加となったが、新規求職申込件数(同2.9%)の増加幅がそれを上回った。

新規求人数は前年比1.0%(7月:同▲2.5%)と3ヵ月ぶりに増加した。産業別には、製造業(同▲7.5%)、建設業(同▲3.8%)が6ヵ月連続、卸売・小売業(同▲0.4%)、生活関連サービス・娯楽業(同▲3.1%)が3ヵ月連続で減少したが、宿泊・飲食サービス業が前年比9.6%と23ヵ月連続で増加し、前月(同2.1%)から伸びを大きく高めた。



23年8月は失業率、有効求人倍率ともに前月から横ばいにとどまったが、宿泊・飲食サービス業は、新型コロナウイルス感染症の5類移行や水際対策の終了を受けた需要の急回復を反映し、就業者数、新規求人数の大幅増加が続いている。

一方、厚生労働省の「毎月勤労統計」によれば、23年7月の現金給与総額は前年比▲0.2%の減少となった。就業形態別には、一般労働者(前年比5.8%)、パートタイム労働者(同3.4%)ともに高めの伸びとなっているが、パートタイム比率の上昇が平均賃金を押し下げた。宿泊・飲食サービス業では人手不足の状態が続いており、このことが平均賃金の上昇につながるかが注目される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。